

過去5年間の血液培養検出状況 ～酵母様真菌を中心に～

○柿沼響香, 秋倉史, 高橋弘志, 岩間暁子, 加地大樹,
永井美香子, 中野拳士朗 (君津中央病院 検査科)

【目的】血液培養は重症感染症において重要である。当院過去5年間の血液培養の検体数・陽性率および酵母様真菌の検出状況の推移を報告する。【方法】測定装置はBACTEC9120&9240(BD)。使用ボトルは92F好気, 93F嫌気, 94F小児を用いた23,108件を対象とした。培養は各種分離培地に1滴塗布し35°Cで18～20時間培養。同定はPhoenix100(BD), APIカンジダ。酵母様真菌薬剤感受性キットASTY(極東製薬)を使用した。真菌の判定基準はCLSIM27-A3, M27-S4改変を用いた。【結果】検体数は3,802件/2010年, 4,648件/11年, 5,082件/12年, 4,877件/13年, 4,699件/14年であった。5年間の上位陽性菌種は*E. coli*:17.5%, CNS:16.1%, *K. pneumoniae*:9.4%, MSSA:9.0%, *E. faecalis/faecium*:5.9%。年度別では陽性菌種に大きな変動は認められなかった。酵母様真菌は69件:2.3%。年度別では2010年から各々3.5%, 3.7%, 2.3%, 2.3%, 0.3%と減少傾向にあった。69件中重複検体を除く41症例の菌種は、*Candida glabrata*:13, *C. albicans*:12, *C. parapsilosis*:8, *C. tropicalis*:6, *C. curvata*:2であった。真菌の薬剤感受性結果はFLCZの*C. albicans*で全て感性を示し、*C. tropicalis*は33.3%であった。MCFGは*C. albicans*, *C. parapsilosis*, *C. tropicalis*は全て感性を示し*C. glabrata*は75.0%となった。41症例の中でカテーテル先端または無菌的材料の培養依頼は21件うち陽性18件(43.9%)で全て血液培養と同菌種であった。【まとめ】過去5年間の血液培養の検体数は上昇傾向にあった。上位陽性菌種に大きな変動は認められなかった。真菌の陽性率は減少傾向にあり菌種は*C. glabrata*と*C. albicans*で全体の約61%を占めた。適切な抗菌薬選択のため薬剤感受性の実施を推奨したい。

連絡先 0438-36-1071 (内線 3342)